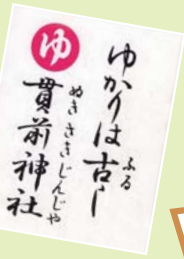




楼門をはじめ、拜殿、本殿が国の重要文化財に指定されている



# るぷく WALK

in 富岡市

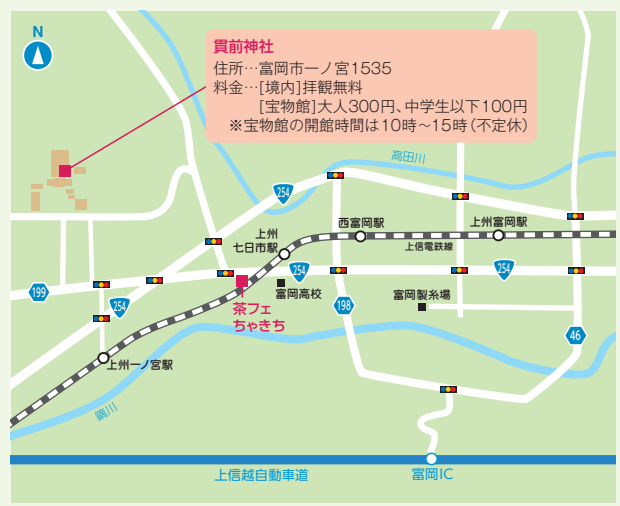
## 伝え継がれる信仰と文化

群馬県の南西部、富岡市に位置する「一之宮貫前神社」。上毛かるたで「ゆかりは古し貫前神社」と詠まれるように、その歴史ははるか昔、1500年ほど前までさかのぼります。

言い伝えによると、有力豪族であった物部氏が神の「経津主神」を祀ったことに始まり、「上野国一之宮」として古代日本の朝廷にも知られる存在だったのだとか。もう一人の祭神、「姫大神」は、養蚕と機織りの神といわれ、地域の信仰を集めてきました。

貫前神社では、古くから伝わる儀式が今も数多く残されています。12年ごとの式年遷宮をはじめ、鹿の骨に生じたひび割れによって吉凶を占う「鹿占神事」(12月8日)など、年間76もの祭儀がおこなわれています。

※「一之宮」とは、地域の中で最も格式が高いとされる神社のこと



**貫前神社**  
住所…富岡市一ノ宮1535  
料金…[境内]拝観無料  
[宝物館]大人300円、中学生以下100円  
※宝物館の開館時間は10時~15時(不定休)

貫前神社を目指して富岡市へやってきたほべたん。桜が立ち並ぶ坂道を登り、鳥居をくぐって総門へと進みます。すると、総門の先

にあらわれたのは、社殿へと続く下りの階段。参道を上った位置に社殿があるのが一般的な神社の造りですが、貫前神社の社殿は総門より低い位置にあるのが特徴です。

階段を下りていくと、鮮やかな朱色の楼門があり、その奥に拜殿、本殿が建っています。

現在の社殿は、3代將軍徳川家光の命によってつくられ、5代將軍綱吉が大規模な改修をしたもの。本殿の外観は一階建てのように見えますが、内部が二階建てになっている独特の造りをしており、これは「貫前造」と呼ばれているそうです。

極彩色の華麗な装飾を眺めながら、ほべたんは社殿をぐるりと一周しました。社殿の裏には樹齢1000年を超える御神木が立ち、木々に囲まれた境内は荘厳な空気が漂います。



全国的にも珍しい「下り参道」



鮮やかな漆塗りの拜殿



千余年の歴史持つ貫前神社を参拝



満開の桜を抜けて貫前神社へ

ほべたんは最後に、境内の東側にある宝物館へ向かいました。貫前神社では約400点の宝物を所蔵。そのうち167点は奈良時代以降に奉納された鏡なのだとか。最も有名なのは「白銅月宮鑑」と呼ばれる鏡で、中国で唐の時代につくられ、徳川家光の乳母によって奉納されたと伝えられています。



白銅月宮鑑

このほか、宝物館では、神事に使用する用具や神楽面、武具などが展示されており、貫前神社の歴史、伝え継がれてきた信仰や文化を垣間見ることがができます。

## 編集だより

貫前神社から徒歩10分ほどの場所にある「茶フェエチャキチ」。日本茶専門店が営むカフェの自家製ジェラートは、抹茶だけで6種類！さらに玄米茶、ほうじ茶、玉露、季節限定の味がそろいます。このほか、メニューは本格的な抹茶からパフェ、あんみつ、クレープまで。のんびりと過ごしたいときにおすすです！



**茶フェエチャキチ**  
住所…富岡市一ノ宮264  
営業時間…11時~18時  
定休日…月曜(祝日の場合は翌日)  
TEL…0274-63-4017  
※ジェラート一色盛り350円、利きジェラート5点盛り800円、ミニお茶パフェ580円(すべて税込価格)